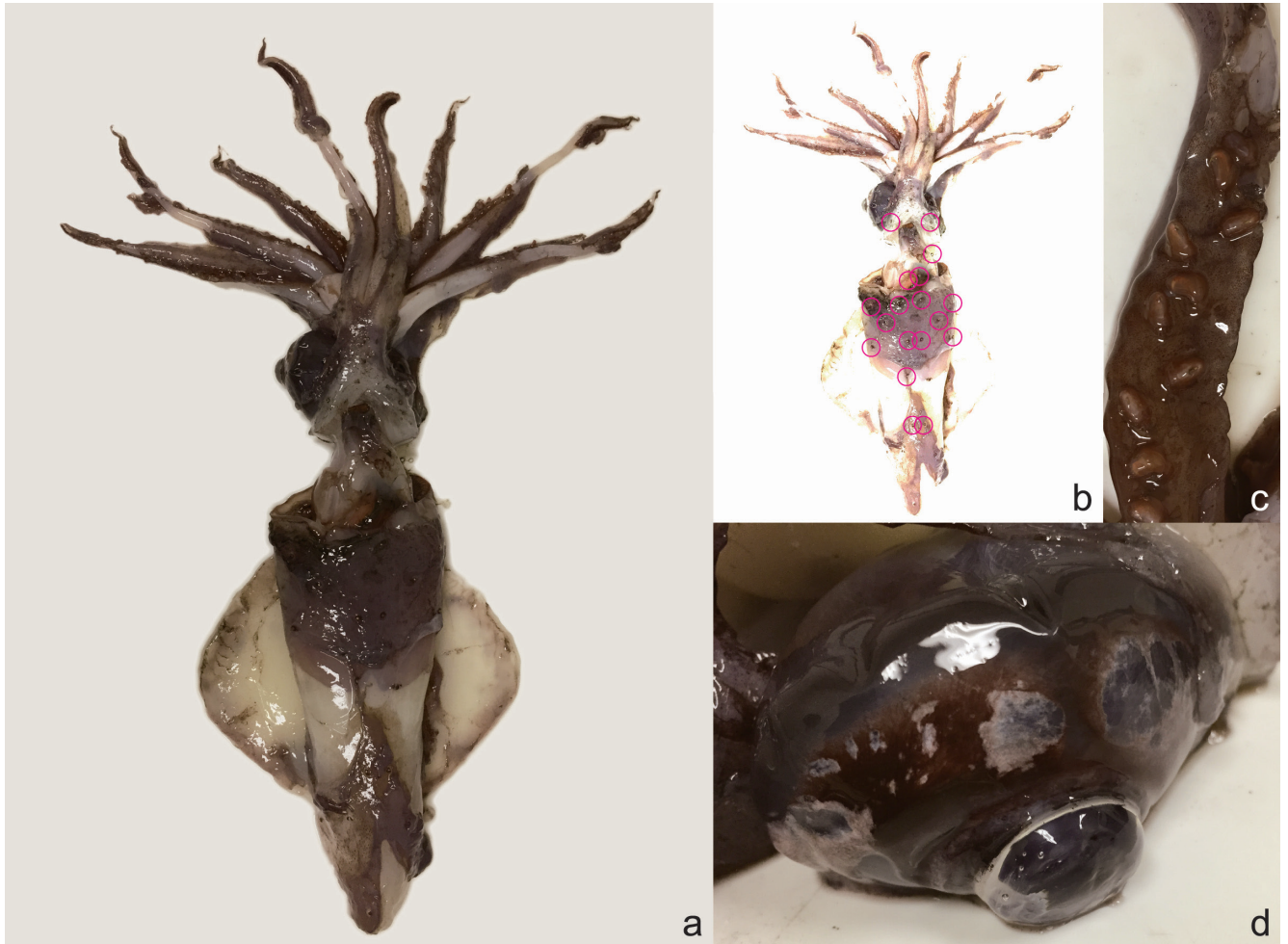


自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 21, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Dec., 2015



ダイオウホタルイカモドキ

Ancistrocheirus lesueurii (d'Orbigny, 1842) KPM-NGL000124.

2015 年 7 月 24 日小田原市米神沖（相模湾）産。

小田原市漁業協同組合・米神漁場採集
佐藤武宏 撮影

a: ダイオウホタルイカモドキ（鮮時）；b: 発光器の配置（発光器を見やすくするためコントラストを上げる画像処理をおこなった）；c: 膜に包まれた鉤爪が 2 列互い違いに並ぶ様子；d: 直径 4 cm に達する大きな眼。

さとうたけひろ
佐藤武宏（学芸員）

水産技術センター相模湾試験場から、小田原市米神沖の定置網に迷い込んだ妙なイカが持ち込まれたという連絡を受けました。2 本の触腕は既に切れて失われていました。

ホルマリンで固定し、エタノールで保存したところ、イカは外套背長が 26 cm から 20 cm にまで収縮してしまいました。しかし、このことにより、外套膜腹面の発光器がくっきり浮き出てきました。この発光器が左右対称に 20 個ほど配列すること、体が寒天質でぶよぶよしていること、鰭が大きく菱形をしていること、眼が大きいこと、太い腕に鉤爪が 2 列互い違いに並ぶことなどの特徴からダイオウホタルイカモドキ科のダイオウホタルイカモドキと同定することができました。

食卓でおなじみのホタルイカはホタルイカモドキ科に分類され、本種とは比較的近縁と考えられています。外套膜腹面に多数の細かい発光器が密に分布し繊細なイルミネーションのように輝くホタルイカに比べると、本種の発光器はまるで武骨な電球のようです。さらに大きさもホタルイカの 6 倍ほどに達することから「ダイオウ」の名を戴いたのかもしれませんがね。